

# 天理



## アメリカ伝道庁春季大祭

1月19日、アメリカ伝道庁の春季大祭が賑やかにつとめられました。祭典後に行われたバークセールの収益金は、伝道庁近郊で発生した山火事への募金として全額寄付されました。

天理教アメリカ伝道庁

No.927

FEBRUARY

2025



TenrikyoAmericaCanada.org



# つらつらせんがく 熟々浅学



## — 営業と“にをいがけ” (3) —

先月 26 日、本部では春季大祭が勤められました。大勢の帰参者も教祖が現身を隠されたことを愚んで参拝されたと存じますが、愚ぶだけではなく、これから先、残り約 1 年となった教祖 140 年祭年祭活動をしっかりつとめ切ることをお誓いし、実践することが大切です。どうぞ宜しくお願い致します。

また、先月の伝道庁春季大祭日 (1/19) より、1 月 7 日から発生しましたロサンゼルス市周辺の山火事に対しての募金活動を始めました。伝道庁 3 月月次祭 (3/16) まで活動を続けますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、前回の続きを書きます。

・人は自分事で動く (コカ・コーラを日本一売った男の学びの営業日誌、53 頁)

話し上手の営業マンの営業成績が良いように思われるようですが、それは誤解とのこと。

著者がある営業所から来られた方と一緒に営業に回ったのですが、この方は控えめな印象を持つ方でした。しかし、自動販売機 (以下、自販機) の販売成績は常に上位に名前が挙げられる人だったので。営業先でもぼつりぼつりと言葉を述べるだけで、後はほとんど相手の話を聴いて、時々頷くだけだったそうです。著者はその様子を見てもどかしいように思ったのですが、しかし営業先の相手の反応は違い、返事の中に少しずつ同意の言葉が混じり出したとのこと。その日その方と 10 件ほど訪問した店の半分ほどで契約をもらうことができたそうです。

一方、違う日に結構おしゃべりな方と自販機の営業に回った時にはほとんど契約が取れなかったとのこと。営業先の相手は自販機のカatalogは見てくれることはあっても、どこか上の空で話を聴いていて、明らかに早く話を終わらせたいとの様子が窺われたとのこと。

そこで著者はある違いに気付いたのです。後者は自販機の素晴らしさを伝え、それによって店の売り上げが上がることを説明していましたが、前

者は自販機を設置することによってどんな嬉しいことが起こるかを伝えて、自販機に投資することへの不安や疑問に耳を傾けることに時間を費やしていたのです。そうやって相手と一緒に、どうすれば良いのかを考える作業をしていたのです。営業する側が相手の問題にどれだけ応えられるのかを考えていたのです。つまり、売り手と買い手という関係ではなく、同志の近い関係になっていたということでしょう。

以前にも書きましたが、この話は、相手の身になること、相手に寄り添うことの大切さを物語っていると思うのです。どれだけ流暢にお道の話をしていても相手の心に響かなければ、教えの素晴らしさを感じてもらうことはできません。おたすけ先の人の心に響く話の仕方、態度が“にをいがけ”でも大切なのではないのでしょうか。

・自分の都合ではなく相手の立場で考える (前述書、57 頁)

営業にはいくつかの営業方法があるそうですが、どの営業方法であっても「どうやって取引先に受け入れてもらえるか」と考えるところから始めるとのこと。最近はネット販売があるので直接人と人の関りがなくても品物を購入することができますが、営業の基本は人が行うもので、人と人の接触があって始まります。そこには人それぞれに性格の違いによる相性というものが生じ、それが営業に影響を与えます。店主によってはきつい口調だったり、営業者を見下したりすることもありますので、まずは店主に受け入れてもらえるように先方の言葉を受け入れることから営業が始まるとのことです。

著者は、店主夫妻と息子が切り盛りしている酒店を担当していましたが、その店では人手が少なく、倉庫は品物を取り出した後の段ボール箱や取引先から回収したビールや酒の瓶が散らばっているような状況でした。そこで品物の搬入時に倉庫を片付けるのですが、少しでも「汚いからやっている」という雰囲気が出ると「頼んでもないのに

余計なことをするな！」と怒られ、注文をもらえないことがあったそうです。

ある日のこと、倉庫のシャッターを開けるといつもより増して汚い状況で、つい「これは汚いなあ」と言ってしまったところ、そこに息子さんがいて「嫌なら無理して片づけなくていいよ。今日は注文はないから」と言われて、その日は店を後にしたとのこと。

この話を同僚に話していたのを先輩が聞いて、どのような気持ちで倉庫の掃除をしていたのかと尋ねられ、「もしお前が商品を買ってもらいたいためにやっていたのなら、それはお店にとって失礼なことだぞ。俺がそこの店主なら掃除をしてくれても全然嬉しくはない。ちょっとばかり倉庫はきれいになるかもしれないけど」と注意されたのです。

著者はこの先輩の注意を受けて「自分の都合ではなく、相手の立場で考える」という基本的なことに気付いたのです。

私たちでも「人のため」と言いながら、実は「自分のため」に行動していることがあるかもしれません。気を付けなくてはなりません。

天理教には、天理教災害救援ひのしきん隊(以下、災救隊)があって、被災地域でひのきしんをしてくださっています。そして、一日の救援活動を終えた時に出勤隊員たちが「有難うございました」と言って立ち去ることに感動を覚える方々が大勢おられます。それは何の見返りも求めず、「被災者のため」で救援活動を行っているからです。もし「天理教の信仰をしてくださいね」という心が少しでも見え隠れしていて救援活動を行っていれば、たぶん人々は感動されないでしょう。

災救隊は「自己完結型」と言われて、出勤の際には隊員の食事、宿営など被災地域の人々のお世話にならないように準備しています。これが「被災者のため」でもあるのです。

被災地域にボランティア活動に向出られる方々の中に、被災地での食事や宿泊場所の提供を期待して行かれる方が居ると聞きます。日中は「被災者のため」に救援活動を行っているにしても、ボランティアの食事や宿泊の世話は被災者にとっては大変な労力となり、何のための救援活動なのかとなってしまいます。どのような活動であっても「相手の立場で考える」ことは大切です。

・ 本当に相手のことを考えるということ (前述書、68頁)

著者が商品を入れているあるホテルの社長が

「入院した」とホテルの事務所の方から聞きました。お見舞いに行っても良いかと尋ねたところ、事務所の方から「喜ぶかもしれないけどお見舞いにお菓子を持って行かないで」と言われたのです。入院中の社長は小太りの体型で、少し動いただけで大汗をかきながら肩で息をするような方でした。そこで、見舞いの品をどうするかと考えたのです。

以前著者は、この社長から「ホテル業でも何でも同じだが、『相手の立場に立って考える』のは当然だ。そこからもう一歩進んで本当に相手のことを考えてものごとをやるということだ」と言われていたことを思い出したのです。そこで、このホテルの事務所には神棚があり、ホテル近くの神社のお礼があったので、その神社の病氣平癒のお礼を渡したところ、社長は大変喜ばれたとのこと。

一方、失敗談があります。ある喫茶店の女性オーナーが入院したので見舞いに行こうとしたのです。この時は、その女性オーナーと仲の良い方から入院先を聞き出したので、詳しい病名は聞いていなかったのです。甘い物が好きだと聞いていたので菓子折りを持参してお見舞いに行ったのですが、病院で出会った女性オーナーは坊主頭で髪の色も以前と変わってグレー色だったのです。著者は直感的にお見舞いに来るべきでなかったと思いましたが後の祭りです。女性にとっては知人にも見せたくない姿だったのです。

この経験を通して、どのような状況であるのかも確認せずお見舞いに何うという自己満足に気付き、菓子折りを渡して早々に退散したそうです。

私たちは知人が病気であれば、おさづけの理を取り次ぎに行きたくなります。その際、もし初めてのおたすけ先であるならば、ある程度先方の状況を確認することは必要かもしれません。特に男性が一人暮らしの女性宅におたすけに行く際は、誰かを一緒に連れて行くような心遣いが必要でしょう。男性が女性におさづけの理の取り次ぎには、特に女性にとって大切な部分に取り次ぐ際は、奥さんや知人の女性に取り次いでもらったり、女性と一対一になるような場所で取り次ぐことのないようにする心配りは必要でしょう。(続く)

深谷 洋

## 立教 188 年春季大祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型なきところから、この世人間をお造りくだされ、絶え間なき年限と御守護と、だん／＼のお仕込みにより、今日の成人の姿をお見せいただいております。私共は御厚恩を片時も忘れることなく、届かぬながらも、日夜御恩報じを念じて懸命に勤めさせていただいておりますが、その中にもこの月は、五十年の長の歲月、たすけ一条のひながたをお示しくだされた教祖が、なおも子供可愛いそれ故に定命を二十五年お縮めになり、扉開いて世界ろくぢに踏み出された忘れ得ぬ尊い由縁の月に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、扉を開かれた元一日に思いを致し、深き親心に御礼申し上げ、座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の春季大祭を執り行わせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびたよふぼく、信者一同が参り集い、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、なおも変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は、本部春季大祭参拝に管内より教会長を始め、よふぼく、信者が帰参いたしますが、道中無事にお連れ通りいただき、ぢばの理を頂戴して、勇み心と共に、それぞれが土地所に戻りましてからは、にをいがけ、おたすけに一層邁進できますようお育ての程をお願い申し上げます。

また、来月十五日には伝道庁にて、管内の龍頭となる人々を対象に、研修会を開催予定ですが、教祖百四十年祭年祭活動三年目として、心新たに勇み心を頂戴する機会となりますようお導きの程をお願い申し上げます。

私共は、世界各地の紛争やロサンゼルスでの山火事を含め、さまざまな災害などの事情を鑑み、また、教祖百四十年祭年祭活動の三年目を意義深き年にできるように、管内の人々が一手一つとなってにをいがけ、おたすけに勤しみ、御教えを世界に伝え広めて、陽気ぐらし世界実現に向けて邁進させていただく所存でございます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、たすけの御用の上にはふしぎな御守護を賜り、一日でも早く世界の人々の心が澄み渡る世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

# 春季大祭神殿講話

アメリカ伝道庁長  
深谷 洋

只今は結構に、立教 188 年アメリカ伝道庁春季大祭を、皆様と共に、賑やかにつとめ終えることができまして、大変嬉しく、そして有難く思っております。

顧みますれば去年は、6 月 30 日に伝道庁創立 90 周年記念祭を、真柱様のご名代として中山大亮様、真柱奥様の中山はるえ様のご臨席を賜り、無事に、そして滞りなく執り行うことができ、大変有難いことでありました。またその前日にはアメリカ婦人会・青年会創立 70 周年記念合同総会を、婦人会長様、青年会長様のご臨席の下、無事に開催でき、有難いことでありました。これも偏に皆様のご協力があったのことで、改めて御礼申し上げます。

さて今日は、年の始めに当たり、思いますところを述べて、教祖 140 年祭年祭活動の仕上げの年の時句を、共々に勇んで通りたいと思っております。暫くの間、お付き合いいただきますようお願い致します。

まずは、1 月 7 日より伝道庁近郊でいくつかの山火事が発生し、家を失うなど被災しておられる大勢の人々や愛する人を亡くされた方々に、心よりお見舞い申し上げますと共に、お悔やみ申し上げます。

本日より伝道庁 3 月月次祭まで、被災者などを支援するために募金活動を始めます。また、ひのきしん活動も考えておりますので、ご協力の程をお願い申し上げます。

さて、教祖 140 年祭は来年 1 月 26 日、本部にて執り行われます。

教祖年祭は、明治 20 年陰暦正月 26 日、教祖が子供である私たち人間の成人を促すために定命を 25 年お縮めになられ、現身をお隠しになられたこ



とを偲んで勤めるのであります。しかし、ただ偲んで勤めるだけでなく、その時には以前よりも成人した私たちの姿を教祖にご覧いただいております。更には、教祖が現身をお隠しになられた直後のおさしづに「今からたすけするのやで」と仰せられたことに思いを致し、改めて教祖のお心に沿って教えを実践することをお誓いし、仕切り直して行動に移す時でもあると思うのです。つまり、10 年毎に教祖年祭を迎える度に、私たちの成人した姿を教祖にご覧いただき、お喜びいただけるように、教祖年祭を迎えることが肝心であるという意味であります。

そこで教祖 140 年祭までの残り 1 年となりましたこの時期に、教祖年祭への成人の歩みを進めるために、改めて論達第 4 号に込められてあります真柱様の思召やお言葉を確認しながらお話ししたいと思います。

論達第 4 号に、

教祖の親心にお応えすべく、よふぼく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切って成人の歩みを進めることが、教祖年祭を勤める意

義である。(論達第4号、2頁)  
と、教祖年祭を勤める意義をご教示くださっています。

「教祖の親心」とは、ひながたをお遺しくされた教祖が、私たち人間の心の成人を促すために明治20年陰暦正月26日に定命を25年お縮めになられてまで現身をお隠しになられたこと、また、その後、存命のまま今も世界たすけの先頭に立ってお働きくださってお導きくださっていることを意味しているのです。

まずはこのことを心に治め、忘れずに三年千日の教祖年祭活動に励むことが肝心であります。

しかし、それだけではいけません。

天理教を信仰している私たちは、親神様、教祖の手足となって陽気ぐらし世界実現を目指すことが使命であることを再認識して、日々教えを実践し、世界たすけに努めることが大切であります。

もちろん、教えの実践は普段からも大切なことですが、殊に教祖年祭に向かう年祭活動では、三年千日と期間を仕切り、普段よりも勇み、励むことが大切なのであります。

論達第4号に、

教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。(論達第4号、3頁)とあります。

また、真柱様は昨年当伝道庁創立90周年記念祭のメッセージで、次のようにお諭しくされています。

仕事や様々なことがある日常の中に暮らしている私たちは、ともすれば、ひながたのことを、忘れてしまうことはなくても、考えることは後回しになりやすいのであります。しかしながら、年祭に向かうこの三年千日の期間はそうした日々とは違って、日頃からひながたに籠もる親心を思案する時間を増やし、思召にふさわしい心が使えるように、教えを実行する努力を重ねるのであって、これが、教祖の年祭に向かう三年千日の道の通り方です。時には、思わぬふしに遭遇することがあるかもしれませんが、そうした中を、ひながたを思って、親に凭れて勇んで通れば、教祖は、

それを見て、ご安心下さるでありましょうし、又、その皆さんの勇んで通る姿が、新しくこの道にお引き寄せ頂く人を御守護頂けることに繋がると思うのであります。

(2024年7月号「一れつ」、6頁)

この年祭活動の期間、普段よりも教祖のひながたを目標(めどう)にして、日々教えを実践することを心掛けていただきたいと思うのです。つまり、普段よりも「教祖ならどうされるだろうか」と教祖のひながたを基準にして物事を判断し、行動するということでもあります。ただ漠然と三年千日の期間を過ごせば良いのではないのです。常日頃よりも教祖のひながたを心の拠り所として物事を思案して判断し、御教えを実践して、日々勇んで通れば、教祖がご安心くださるのです。また、それが御教えを広めることに繋がると思うのです。

その教祖のひながたを目標にして通ることに関して論達第4号では、

「水を飲めば水の味がする」

と、どんな中でも親神様の大きい御守護に感謝して通ることを教えられ、また、あるときは、

「ふしから芽が出る」

と、成ってくる姿はすべて人々を成人へとお導き下さる親神様のお計らいであると諭され、周囲の人々を励まされた。

さらには、

「人救けたら我が身救かる」

と、ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていくとお教え下された。(論達第4号、3、4頁)

と、この3つの教えを挙げられて、どのような心持ちで通ることが大切であるかをご教示くださっています。

もちろん、教祖が教えくださった教えはこの3つだけではなく。しかし、まずはこの3つの教えを心に治めて御教えを実践して通れば、ひながたを目標にした年祭活動の通り方ができると思うのです。

真柱様は昨年の当伝道庁創立90周年記念祭のメッセージで、

教祖の年祭は、故人を偲んで勤める人間の年祭

と違って、年祭を親神様が望まれる陽気ぐらしの世界へ辿り着くための一つの節目と捉え、その節目毎に成人の姿へ近づいていく様子を教祖にご覧頂いてご安心頂きたい、という私たちの決意をもって勤めるものであります。

(2024年7月号「一れつ」、5頁)

と、お諭しくだされています。つまり、私たちの成人した姿を教祖にご覧いただくのが教祖の年祭の時であるという意味です。そして、先程も申しましたが、年祭毎に成人する私たちの姿をご覧いただくために、年祭活動を進めていくことが肝心であると思うのです。私たちの成人した姿を教祖にご覧いただくことにより、教祖に安心していただけ、お喜びいただけるのであります。

真柱様は昨年の本部秋季大祭に於いて、道の子が一手一つになって力強く歩むまでには、もっとたくさんのおよぶくが年祭に心に向け、年祭へ向かっての動きに取り組むように働きかけ、丹精を続けなければ、教祖に安心してはいただけないと思います。

(立教187年12月号「みちのとも」、7頁)と述べられました。つまり、にをいがけ、おたすけによって、教祖年祭に参拝してくれるおよぶくを与えていただけるように、また、信仰の途中で立ち止まっている人々、例えば、初席や中席で止まっている人々に心を掛け、声を掛けて、およぶくになってもらえるように丹精することの大切さを仰せられていると思うのです。そして、陽気ぐらし世界実現のために、一人でも多くのおよぶくを与えていただけるように努力し、その人々と共に教祖年祭時におぢばがえりして、教祖にお喜びいただけるように努めてもらいたいということと拝察するのであります。

また、真柱様は、

三年千日の期間は、動かさせていただくことが大切であります。一生懸命取り組んで、年祭の当日、おぢばへ帰ってきてなくても、その日をうれしい心で迎えることができるように、まだ三分の一残っている三年千日を、勇み心を奮い起こしてお通りくださるよう…。

(立教187年12月号「みちのとも」、7頁)



とも述べられています。

まずは年祭活動に励むこと、動くことであります。動かなければ何も始まらないのです。三年千日の期間、陽気ぐらし世界実現のために動くことを心掛けていただきたいとの仰せであります。

教祖140年祭当日に、大勢の人々におぢばがえりしていただきたいことになりませんが、事情によってその日におぢばがえりできなくても、嬉しい心になっているような年祭活動の成果を得ていただきたい、成人した姿になっていただきたいと仰せられていると思うのであります。

真柱様は昨年の本部秋季大祭にて、次のようにも述べられました。

今回の年祭活動は、年祭に向かって各直属教会やそれぞれの教会で目標を定めて、成人の歩みを進めることとしたのであります。

(立教187年12月号「みちのとも」、5頁)

昨年の伝道庁秋季大祭祭典講話に於いて私は、それぞれの直属教会が定めている「年祭活動の方針」と「具体的な目標」を実行していただきたい旨の話をしました。本年1年間、皆さんが所属する直属教会や各教会で定めている「年祭活動の方針」と「具体的な目標」を心に置いて実行していただき、完遂を目指していただきたいと思うので

あります。

また、昨年の本部秋季大祭翌日、表統領とたすけ委員長より、年祭活動3年目である本年は、先程申しました各直属教会や各教会の心定め of 完遂を目指していただきたい旨の話と共に、おちばがえりを促進していただきたいとの話がありました。表統領とたすけ委員長のお言葉ではありますが、そこには親の思いが込められていると思いますので、その思いに沿って努めていただきたいと思うのであります。

アメリカ伝道庁も直属教会でありますので、「年祭活動の方針」と「具体的な目標」を定めていますが、その「具体的な目標」の一つに「年祭活動中、年祭時、年祭の年のおちばがえりの促進」を定めており、伝道庁管内教会にはその旨を伝えて、実行していただきたいとお願いしています。

経済的な理由で難しいことは重々承知の上で話しますが、アメリカ伝道庁管内の皆様にも年祭活動3年目の本年、人を誘ってのおちばがえりを目指していただければとも思っております。

もちろん、教祖140年祭当日、つまり来年の1月26日にも、よふぼくを含め、大勢の人々におちばがえりしていただき、教祖にご安心いただけるように、お喜びいただけるように勤めていただきたいと願っております。

そのために、教祖140年祭年祭活動の3年目である本年1年間を、それぞれの持ち場立場で、勇んで、そして精一杯に努めて、成人の道を歩める年祭活動にさせていただきたいとお願いしまして、本日の私の話を終えたいと存じます。

ご清聴有難うございました。



### LA Eaton & Palisades wild fires

年明けから、ロスアンゼルス近郊で多発的に発生した大規模な山火事にて、最前線の現場で消火活動にあたる消防士の方々の絶え間ない努力に感謝の気持ちを込めて、寿司職人として活躍されている宍戸孝教さん(洲本)が、ロスアンゼルス消防署第88分署に、ちらし寿司30人前をふるまいました。





## 伝道庁連絡



### 春季大祭

祭主 庁長  
 扈者 中富淳次郎 林孝彦  
 賛者 伊藤光春 上杉浩司  
 指図方 鳥澤繁實  
 神殿講話 庁長（英）

### 教会事情

タミナル教会：神殿屋根葺替願、  
 遷座祭日願（2件）、臨時祭典願  
 おはこび予定：2025年3月末  
 鎮座祭：2025年5月30日  
 奉告祭：2025年5月31日

### 春季霊祭

3月15日（土）午後7時より、春季霊祭を執り行います。今回は、ブレッシュ・ジョージ、クーパティエノ布教所初代所長の霊様を合祀致します。

### Three Day Course

2月21（金）～23日（日）の日程で開催します。英語コースは4名以上の申し込み、スペイン語コースは2名以上の申し込みがある場合のみ開催します。

### 第85回アメリカ修養会

第85回アメリカ修養会が、6月15日（日）から7月12日（土）まで開講予定です。開講約1ヶ月前（5月18日）までに、英語・日本語クラスは2名以上、スペイン語クラスは5名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

### 南カリフォルニア山火事募金・ひのきしん活動

南カリフォルニアでの山火事災害に対して、3月16日（日）まで、伝道庁事務所に募金箱を設けて募金を始めます。小切手の場合は宛名に「Tenrikyo Mission Headquarters in America」と記入し、メモ欄に「SoCal Wildfires Disaster Relief」または「南カリフォルニア山火事募金」と書いてください。尚、現金の郵送はご遠慮ください。

Tax 控除を希望される場合は、封筒に現金又はチェックを入れて封をし、寄付者氏名、住所、

金額と「SoCal Wildfires Disaster Relief」または「南カリフォルニア山火事募金」と封筒に書き、募金箱に入れてください。後日、アメリカ伝道庁より感謝状を送らせていただきます。

### 新ようぼく『天理時報』贈呈・送付

おさづけの理を拝戴された日本在住者の「新ようぼく」の方に、教会本部より「天理時報」1年分が無料で贈呈・送付されています。申込書は別席受付に常備されていますので、日本在住者の場合は「おさづけの理拝戴願」と共に別席受付に提出してください。

日本国外（海外）在住者の場合は、郵送料が余分に掛かり、その分を支払っていただく必要がありますので、道友社業務課窓口で申し込んでください。

尚、「天理時報」は日本語のみですので、ご承知おきください。

### 天理よろづ相談所病院（憩の家）

#### 「トワイライト人間ドック」

- ・天理よろづ相談所病院（憩の家）が「日帰り人間ドック」を始めましたのご案内致します。
- ・日本国外（海外）在住者でも受診可能です。但し、2週間前の事前予約が必要です。
- ・Websiteでの申し込みが可能ですが、申込書は日本語で記入してください。
- ・申込書内の電話番号は、受診者のことをよくご存知の日本在住者の電話番号を記入してください。
- ・Websiteで申し込みできない場合は、日本在住の代理人による直接病院での申し込みが可能です。
- ・日本語の出来ない方でも受診は可能です。但し、日本語の出来る方の付添いが必須となります。
- ・問診票などの送付先は詰所や所属教会の住所でも構いませんが、日本国内の住所で申し込んでください。受診結果もその住所に送付されます。
- ・日本国外（海外）在住者は日本の健康保険証を保持していないので必要ありませんが、旅行者保険などに加入しておくことをお勧めします。
- ・詳細は天理よろづ相談所病院のWebsite（日本語のみ）をご確認ください。

[https://www.tenriyorozu.jp/kakubu/center/kenshin/twilight\\_ningendoc](https://www.tenriyorozu.jp/kakubu/center/kenshin/twilight_ningendoc)



## 伝道庁人事

2月13日、中林千界（ちかい）氏（大原）が柔道師範として着任しました。

## 各会連絡

### ふしん

MP ホール2階北側の男子トイレを、ロバート・バカロフさん（ハリウッド教会）が修復、塗装してくださいました。

### 布教委員会

2月15日、教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会を開催しました。

内容：メンタルヘルスについての理解を深め、おたすけ活動に役立てる

### 教化育成委員会

今年のおぢばで開催されるおやさと練成会には、昨年冬に事前講習を修了した8名の学生から申し込みがありました。

### 広報委員会

・教祖140年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先：川上 (kamishuyo@hotmail.com)  
林 (takhayashi@gmail.com)

・伝道庁ホームページにて、「祭典講話」、「SoulFire」の記録ビデオ、「Stories inspired by Oyasama」等のアップデートに加え、「90年の歩み：写真展」、「アメリカ婦人会70年史」のスライドショーも掲載されています。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。また、domain name も Tenrikyo.com から [TenrikyoAmericaCanada.org](http://TenrikyoAmericaCanada.org) に変更されました。

### Future Path 委員会

・8月30、31日に天理教原典の勉強会を開催予定。

### 婦人会

・天理教婦人会第107回総会

2025年4月19日（土）

午前9時30分 於 本部中庭

記念行事 支部の集い

別席強調月間 3月1日～4月30日

- ・アメリカ婦人会総会  
5月17日（土）午前10時 於 伝道庁
- ・こかん様に続く会  
5月17日（土）午後1時半 於 伝道庁



総ての会員がおぢばへ 人を誘っておぢばへ

### 少年会

- ・【変更】本年度の少年会総会は8月16日（土）に開催する事になりました。総会の案内、及びアンケートを今月配布します。
- ・少年会キャンプを6月20日（金）～22日（日）の日程で行います。詳細は追って発表します。
- ・少年ひのきしん隊の女子カウンセラーを募集しています。希望者がおられましたら団長までご連絡ください。

moto1884@gmail.com

- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせ下さい。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。

### NY センター

- ・2/22 少年会お泊まり会（～23）
- ・青年会・婦人会人材派遣生着任  
森本善修（もりもと よしのり）（笠岡）  
清水順三（しみず じゅんぞう）（栗田）  
泉並明理（いずみなみ あかり）（中河）  
中尾優代（なかお まさよ）（西成）

## 管内新任教会長さんご紹介 2022年～2024年

2022年から2024年にかけて、9名の方々が新たに管内の教会長として任命されました。記載はおはこび日と今後の抱負です。今月は5名の方々をご紹介します。



Utah 教会  
大林昌代

2024年3月26日

「初代、二代会長が丹精してこられたユタ教会の理を絶やさぬよう、未熟者ではございますが細く長くつなげていきたいと思っています。どうぞ今後ともご指導のほどをよろしく願いたします。」



台檀 教会  
ソー・リン・ミツノ

2024年4月26日

「私はただ、この寒さを生き延びようと、そして全ての人の名前と教会の名前を覚えようとしているだけです。マハロ」



Chicago 教会  
木村陽介

2024年4月18日

「私の今年の抱負は、信者さん一人ひとりが新しい鳴り物を習うか、おつとめの半下りを本やガイドなしでつとめられるようになることです。さらに私個人としては、女鳴り物を含め、おつとめの全てのでおどり鳴り物を本なしでつとめられるようになりたい。」



Orange 教会  
伊藤錦平

2024年7月26日

「年祭に向かって、頑張ります！」



Brotherhood 教会  
森下 Raymond

2024年11月26日

「喜びと感謝を信者さんやコミュニティーに広げ、教会内容の充実を目指して頑張りたい」

教会	会長	おはこび	奉告祭
2024年			
Utah 教会	大林昌代	3月26日	4月21日
台檀教会（移転）	ソー・リン・ミツノ	4月26日	7月28日
Chicago 教会	木村陽介	4月18日	7月28日
Orange 教会	伊藤錦平	7月26日	9月21日
Brotherhood 教会	森下 Raymond	11月26日	2025年2月8日

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA  
2727 EAST FIRST STREET  
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

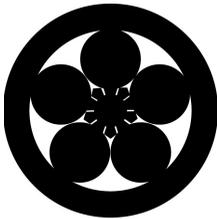
U.S.POSTAGE  
PAID

LOS ANGELES, CA  
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

---

## THE JOYOUS LIFE



**TENRIKYO** came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.  
The mind alone is yours.”  
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.